

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年6月4日
【四半期会計期間】	第55期第2四半期（自2021年1月21日 至2021年4月20日）
【会社名】	株式会社オリバー
【英訳名】	OLIVER CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大川 和昌
【本店の所在の場所】	愛知県岡崎市藪田一丁目1番地12
【電話番号】	(0564)27-2800(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 山本 隆夫
【最寄りの連絡場所】	愛知県岡崎市藪田一丁目1番地12
【電話番号】	(0564)27-2800(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 山本 隆夫
【縦覧に供する場所】	株式会社オリバー東京本社 (東京都江戸川区西葛西六丁目27番19号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期 第2四半期 連結累計期間	第55期 第2四半期 連結累計期間	第54期
会計期間	自 2019年10月21日 至 2020年4月20日	自 2020年10月21日 至 2021年4月20日	自 2019年10月21日 至 2020年10月20日
売上高 (千円)	15,942,600	15,401,552	26,909,332
経常利益 (千円)	1,544,338	1,906,186	2,141,786
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	1,053,488	1,167,396	1,370,059
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	652,809	1,838,293	1,094,068
純資産 (千円)	30,927,844	32,714,646	31,201,054
総資産 (千円)	42,248,629	43,717,084	39,511,263
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	103.31	114.42	134.33
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	64.9	66.5	69.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	615,750	1,498,716	2,052,364
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	391,846	420,949	206,106
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	428,491	339,476	597,037
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	17,184,961	20,607,562	19,856,924

回次	第54期 第2四半期 連結会計期間	第55期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年1月21日 至 2020年4月20日	自 2021年1月21日 至 2021年4月20日
1株当たり四半期純利益 (円)	86.85	50.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当連結会計年度より、連結決算日を10月20日から12月31日に変更しております。この変更に伴い、第55期第2四半期連結累計期間については、当社は2020年10月21日から2021年4月20日までの6ヵ月間、海外の連結子会社2社は2020年8月1日から2021年3月31日までの8ヵ月間を連結する変則的な決算となっております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済情勢は、新型コロナウイルスの長期化・再拡大により、再度緊急事態宣言が発出されるなど経済活動が大幅に制約されており、依然先行き不透明な状況が続いております。

こうした経済状況の中、当社グループは『収益向上・安定的な成長』の基本方針のもと、より市場別に深耕した営業活動に取り組み、シェア拡大及び新規顧客開拓に努めてまいりました。

新型コロナウイルスの影響で、飲食チェーン店やレジャー施設の新規出店などの回復は未だ難しい状況にありますが、オフィス市場での大型移転案件や新たに発売したプライベートブース「CAP-CELL」の販売が伸長いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高が15,401百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益は1,833百万円（同26.1%増）、経常利益は1,906百万円（同23.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,167百万円（同10.8%増）となりました。

主なセグメントの経営成績は以下のとおりであります。

家具・インテリア事業

家具・インテリア事業につきましては、大型宿泊施設の納入は一巡しましたが、大型オフィス移転案件等でオフィス・文教・公共市場が好調であったため、売上高は13,978百万円（前年同期比4.0%減）、営業利益は1,573百万円（同29.7%増）となりました。

販売市場別では、宿泊市場は、大型宿泊施設への納入は一巡した影響もあり、売上高は3,041百万円（同37.3%減）となりました。

医療・福祉市場は、新築案件がやや減少傾向のなか、調剤薬局やクリニックなどの待合での感染防止対策用パーティションの全国的な納入や改装案件に注力し、売上高は2,677百万円（同0.3%減）となりました。

オフィス・文教・公共市場は、大型オフィス移転案件の納入や「GIGAスクール構想」によるタブレット保管庫の販売、さらに遮音性・快適性に優れたプライベートブース「CAP-CELL」を発売し、オンライン会議、オンライン面接などの需要からオフィスや大学への販売も伸長し、売上高は4,855百万円（同46.0%増）となりました。

商環境市場は、レジャー施設などの新規開業は抑制されましたが、全国の商業施設で感染防止対策用パーティションの設置や都内の新規商業施設案件への納入があり、売上高は1,555百万円（同3.0%減）となりました。

チェーンストア・その他市場は、既存店での感染防止対策製品の納入もありましたが、全国的にチェーンストアの新規出店は鈍化したため、売上高は1,849百万円（同12.0%減）となりました。

放送・通信事業

放送・通信事業につきましては、感染症対策を徹底して開催を行っているミクス光相談会により、加入獲得件数は引き続き堅調に推移しております。また、新たな販促アプローチとして提携先企業とのコラボレーション販促を様々な媒体で実施し、サービスの需要拡大に努めました。

通信事業は、ワークスタイルの変化によるテレワーク、オンライン会議、クラウド利用等の拡大において、自宅や職場へ高速で安定した回線であるFTTHサービスの需要は引き続き拡大傾向にあり、自宅での高速なインターネット回線とあわせて家庭内のWi-Fi環境も提供する「Wi-Fi+400」の提供も開始いたしました。

放送事業は、地域情報コンテンツでの他事業者との差別化だけではなく、インターネット配信を行うなど時代の環境に合わせてサービスの提供が行えるように取り組んでおります。また、高品質を求める方に多チャンネルコンテンツ及び高画質・高機能な4K放送対応STB（セットトップボックス）を訴求し、引き合いが増加いたしました。

この結果、放送・通信事業における売上高は1,371百万円（同3.8%増）、営業利益は227百万円（同9.2%増）となりました。

その他事業

その他事業につきましては、牧場事業及び不動産賃貸事業を区分しており、売上高は51百万円（同2.3%減）、営業利益は32百万円（同1.4%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は以下のとおりであります。

総資産については、前連結会計年度末に比べて4,205百万円増加し、43,717百万円となりました。その主な要因は現金及び預金の増加910百万円、受取手形及び売掛金の増加2,695百万円、投資有価証券の増加649百万円でありま

す。
負債については、前連結会計年度末に比べて2,692百万円増加し、11,002百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金の増加1,026百万円、電子記録債務の増加1,775百万円であります。

純資産については、前連結会計年度末に比べて1,513百万円増加し、32,714百万円となりました。その主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益1,167百万円の計上及び剰余金配当306百万円による利益剰余金の増加861百万円、その他有価証券評価差額金の増加513百万円であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より750百万円増加し、20,607百万円となっております。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,498百万円の収入超過(前年同期は615百万円の支出超過)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益1,850百万円、売上債権の増加額2,695百万円、仕入債務の増加額2,802百万円、法人税等の支払額353百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、420百万円の支出超過(前年同期比29百万円の支出増)となりました。これは主に、定期預金の預入による支出129百万円、有形固定資産の取得による支出189百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、339百万円の支出超過(前年同期比89百万円の支出減)となりました。これは主に、配当金の支払額305百万円によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等について、重要な変更及び新たな発生はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は10百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	47,893,000
計	47,893,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年4月20日)	提出日現在発行数(株) (2021年6月4日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,976,053	12,976,053	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数 100株
計	12,976,053	12,976,053	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2021年1月21日 ~ 2021年4月20日	-	12,976	-	6,362,498	-	5,401,276

(5) 【大株主の状況】

2021年4月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
一般社団法人大川	愛知県岡崎市藪田一丁目10番地20	1,852	18.2
オリバー取引先持株会	愛知県岡崎市藪田一丁目1番地12	591	5.8
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	500	4.9
(株)みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	438	4.3
(株)三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	435	4.3
大川 三千代	東京都港区	319	3.1
大川 淳子	東京都中央区	318	3.1
岡崎信用金庫	愛知県岡崎市菅生町元菅41番地	256	2.5
オリバー社員持株会	愛知県岡崎市藪田一丁目1番地12	247	2.4
日本マスタートラスト信託銀行(株)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	238	2.3
計	-	5,198	50.9

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年4月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,769,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,191,300	101,913	-
単元未満株式	普通株式 15,753	-	-
発行済株式総数	12,976,053	-	-
総株主の議決権	-	101,913	-

(注) 単元未満株式数には自己保有株式37株が含まれております。

【自己株式等】

2021年4月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社オリバー	愛知県岡崎市藪田 一丁目1番地12	2,769,000	-	2,769,000	21.3
計	-	2,769,000	-	2,769,000	21.3

(注) 2021年2月8日開催の取締役会決議により、2021年3月5日付で譲渡制限付株式報酬として5,840株の自己株式を処分しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年1月21日から2021年4月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年10月21日から2021年4月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年4月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,539,435	22,450,226
受取手形及び売掛金	4,296,132	6,991,143
たな卸資産	1,176,953	1,327,428
その他	281,941	236,173
貸倒引当金	28,998	33,547
流動資産合計	27,265,463	30,971,425
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,360,732	2,239,766
機械装置及び運搬具(純額)	854,462	781,736
土地	3,764,169	3,772,800
その他(純額)	204,520	213,941
有形固定資産合計	7,183,885	7,008,244
無形固定資産		
無形固定資産	176,400	206,475
投資その他の資産		
投資有価証券	4,176,048	4,825,064
保険積立金	193,432	198,999
退職給付に係る資産	215,720	224,269
繰延税金資産	67,448	56,744
その他	363,476	277,184
貸倒引当金	130,612	51,322
投資その他の資産合計	4,885,514	5,530,938
固定資産合計	12,245,799	12,745,659
資産合計	39,511,263	43,717,084

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年4月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,493,473	2,520,067
電子記録債務	1,247,385	3,023,041
短期借入金	950,000	950,000
未払法人税等	400,460	571,973
賞与引当金	356,127	271,460
役員賞与引当金	66,633	35,690
その他	1,243,568	811,500
流動負債合計	5,757,648	8,183,731
固定負債		
役員退職慰労引当金	114,049	103,054
退職給付に係る負債	397,205	407,178
長期未払金	1,866,749	1,866,749
繰延税金負債	124,910	390,078
その他	49,644	51,644
固定負債合計	2,552,559	2,818,706
負債合計	8,310,208	11,002,438
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,362,498	6,362,498
資本剰余金	5,452,537	5,461,774
利益剰余金	18,107,892	18,969,249
自己株式	3,113,810	3,107,620
株主資本合計	26,809,117	27,685,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	991,839	1,505,774
繰延ヘッジ損益	1,203	1,222
為替換算調整勘定	37,332	10,971
退職給付に係る調整累計額	150,862	131,630
その他の包括利益累計額合計	802,441	1,386,337
非支配株主持分	3,589,496	3,642,406
純資産合計	31,201,054	32,714,646
負債純資産合計	39,511,263	43,717,084

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月21日 至2020年4月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月21日 至2021年4月20日)
売上高	15,942,600	15,401,552
売上原価	11,860,657	11,030,033
売上総利益	4,081,942	4,371,519
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	44,968	1,226
役員報酬及び給料手当	949,881	902,317
賞与引当金繰入額	224,075	240,218
役員賞与引当金繰入額	33,316	35,690
役員退職慰労引当金繰入額	6,930	1,244
退職給付費用	26,580	51,148
運搬費	256,995	232,757
減価償却費	115,300	117,250
その他	969,115	955,751
販売費及び一般管理費合計	2,627,162	2,537,604
営業利益	1,454,780	1,833,914
営業外収益		
受取利息及び配当金	69,634	58,894
デリバティブ評価益	2,680	-
その他	33,908	21,801
営業外収益合計	106,223	80,696
営業外費用		
支払利息	2,446	2,370
デリバティブ評価損	-	1,740
為替差損	9,539	4,245
保険解約損	4,627	-
その他	52	68
営業外費用合計	16,665	8,424
経常利益	1,544,338	1,906,186
特別利益		
固定資産売却益	992	858
投資有価証券売却益	127,781	-
特別利益合計	128,774	858
特別損失		
固定資産処分損	464	-
投資有価証券売却損	-	0
投資有価証券評価損	11,759	56,605
その他	-	200
特別損失合計	12,223	56,805
税金等調整前四半期純利益	1,660,888	1,850,238
法人税、住民税及び事業税	472,093	515,147
法人税等調整額	51,051	80,694
法人税等合計	523,145	595,841
四半期純利益	1,137,742	1,254,397
非支配株主に帰属する四半期純利益	84,253	87,000
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,053,488	1,167,396

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月21日 至2020年4月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月21日 至2021年4月20日)
四半期純利益	1,137,742	1,254,397
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	481,790	513,935
繰延ヘッジ損益	1,415	2,425
為替換算調整勘定	3,287	48,303
退職給付に係る調整額	1,559	19,232
その他の包括利益合計	484,933	583,896
四半期包括利益	652,809	1,838,293
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	568,555	1,751,293
非支配株主に係る四半期包括利益	84,253	87,000

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月21日 至2020年4月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月21日 至2021年4月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,660,888	1,850,238
減価償却費	306,530	309,796
株式報酬費用	5,239	7,894
貸倒引当金の増減額(は減少)	26,968	74,740
賞与引当金の増減額(は減少)	118,831	84,667
役員賞与引当金の増減額(は減少)	50,516	30,943
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	1,876,883	10,994
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	86	28,937
受取利息及び配当金	69,634	58,894
支払利息	2,446	2,370
為替差損益(は益)	701	4,954
デリバティブ評価損益(は益)	2,680	1,740
固定資産売却損益(は益)	992	858
投資有価証券売却損益(は益)	127,781	0
投資有価証券評価損益(は益)	11,759	56,605
売上債権の増減額(は増加)	2,567,056	2,695,010
たな卸資産の増減額(は増加)	202,296	150,475
保険積立金の増減額(は増加)	118,017	5,566
仕入債務の増減額(は減少)	900,347	2,802,248
長期未払金の増減額(は減少)	1,866,749	-
その他	113,456	146,824
小計	230,393	1,795,901
利息及び配当金の受取額	69,634	58,894
利息の支払額	2,484	2,287
法人税等の支払額	452,507	353,793
営業活動によるキャッシュ・フロー	615,750	1,498,716
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	325,752	129,206
有形固定資産の取得による支出	196,987	189,313
有形固定資産の売却による収入	992	858
無形固定資産の取得による支出	6,964	99,264
投資有価証券の取得による支出	10,734	7,575
投資有価証券の売却による収入	147,600	0
その他	-	3,550
投資活動によるキャッシュ・フロー	391,846	420,949
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	821	364
配当金の支払額	406,378	305,022
非支配株主への配当金の支払額	21,290	34,090
財務活動によるキャッシュ・フロー	428,491	339,476
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,351	12,348
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,437,439	750,638
現金及び現金同等物の期首残高	18,622,401	19,856,924
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,184,961	20,607,562

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

当社の決算日を10月20日から12月31日に変更したことに伴い、従来決算日が7月31日であった海外連結子会社2社は、決算日を9月30日に変更しております。この決算期変更により、当第2四半期連結累計期間において海外連結子会社2社は、2020年8月1日から2021年3月31日の8ヵ月間を連結しております。

なお、この変更による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(決算期の変更)

2021年1月19日開催の定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認され、当連結会計年度より決算期を10月20日から12月31日に変更いたしました。

これに伴い、決算期変更の経過期間となる当連結会計年度は2020年10月21日から2021年12月31日までの14ヵ月11日の変則決算となります。

(四半期連結貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年10月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年4月20日)
商品及び製品	671,137千円	888,489千円
仕掛品	286,958	246,331
原材料及び貯蔵品	218,857	192,608

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月21日 至2020年4月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月21日 至2021年4月20日)
現金及び預金勘定	19,193,678千円	22,450,226千円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	2,008,716	1,842,663
現金及び現金同等物	17,184,961	20,607,562

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2019年10月21日 至 2020年4月20日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の 原資
2020年1月16日 定時株主総会	普通株式	407,877	40.00	2019年10月20日	2020年1月17日	利益 剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の 原資
2020年6月1日 取締役会	普通株式	153,019	15.00	2020年4月20日	2020年7月1日	利益 剰余金

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2020年10月21日 至 2021年4月20日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の 原資
2021年1月19日 定時株主総会	普通株式	306,039	30.00	2020年10月20日	2021年1月20日	利益 剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の 原資
2021年5月31日 取締役会	普通株式	173,519	17.00	2021年4月20日	2021年7月1日	利益 剰余金

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2019年10月21日 至2020年4月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	家具・イン テリア事業	放送・通信 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,568,419	1,321,363	15,889,783	52,817	15,942,600	-	15,942,600
セグメント間の内部 売上高又は振替高	917	4,228	5,146	11,726	16,873	16,873	-
計	14,569,337	1,325,592	15,894,929	64,543	15,959,473	16,873	15,942,600
セグメント利益	1,212,850	208,636	1,421,486	33,167	1,454,654	125	1,454,780

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、牧場事業、不動産賃貸事業を含んでおります。

2. 調整額は、セグメント間取引であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自2020年10月21日 至2021年4月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	家具・イン テリア事業	放送・通信 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	13,978,841	1,371,127	15,349,969	51,583	15,401,552	-	15,401,552
セグメント間の内部 売上高又は振替高	286	3,652	3,939	11,726	15,666	15,666	-
計	13,979,128	1,374,780	15,353,908	63,309	15,417,218	15,666	15,401,552
セグメント利益	1,573,205	227,884	1,801,089	32,699	1,833,788	125	1,833,914

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、牧場事業、不動産賃貸事業を含んでおります。

2. 調整額は、セグメント間取引であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月21日 至2020年4月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月21日 至2021年4月20日)
1株当たり四半期純利益	103円31銭	114円42銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,053,488	1,167,396
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,053,488	1,167,396
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,197	10,202

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(中間配当に関する取締役会決議)

2021年5月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- | | |
|-----------------------|-----------|
| (1) 中間配当金の総額 | 173,519千円 |
| (2) 1株当たりの金額 | 17円00銭 |
| (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 2021年7月1日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年6月4日

株式会社オリバー
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
名古屋事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡野 英生

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 稲垣 吉登

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オリバーの2020年10月21日から2021年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年1月21日から2021年4月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年10月21日から2021年4月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オリバー及び連結子会社の2021年4月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の

結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。